

平成29年度 地域学校協働活動事業 第1回福島県地域連携担当 教職員連絡協議会

日時：平成29年5月11日（木）10:00～15:50

会場：福島県立図書館



福島県教育委員会

平成29年度 地域学校協働活動事業

第1回福島県地域連携担当教職員連絡協議会実施要項

- 1 目的 地域連携担当教職員として、基礎的な知識や地域学校協働本部事業の企画・立案・実施に向けての技能等を習得し、連携担当教職員の資質の向上を図る。
- 2 主催 福島県教育委員会
- 3 期 日 平成29年5月11日（木）
- 4 会 場 福島県立図書館 第1研修室
〒960-8003 福島市森合字西養山1
電話 024-535-3218
- 5 対 象 地域連携担当教職員、地域コーディネーター、市町村教育委員会担当者、教育事務所担当社会教育主事等
- 6 研修主題 「地域学校協働本部について」
～地域連携担当教職員と地域コーディネーターの役割～
- 7 日程及び内容

時 間	内 容
9:45～10:00	受 付
10:00～10:10	開会行事
10:10～10:30 (20 分)	説明 「頑張る学校応援プランと地域協働本部事業」 福島県教育庁教育総務課 課長 高橋 洋平
10:30～11:15 (45 分)	講話 「地域とともにある学校の実現に向けて」 講師 文部科学省視学委員 福島県復興教育アドバイザー 貝ノ瀬 滋 氏
11:20～12:00 (40 分)	情報交換
12:00～13:00 (60 分)	昼食
13:00～14:30 (90 分)	講義Ⅰ 「地域学校協働本部ってなに？」 講師 尚絅学院大学エクステンションセンター センター長 松田 道雄 氏
14:40～15:40 (60 分)	講義Ⅱ 「『地域連携担当教職員と地域コーディネーターの役割』について」 講師 栃木県教育委員会事務局生涯学習課 ふれあい学習担当 課長補佐 井上 昌幸 氏
15:40～15:50 (10 分)	閉会行事

福島県教育庁教育総務課 課長 高橋 洋平

「地域と共にある学校」目玉の取組 → 地域と学校の協働

- 1 新しい取組・・・恐れることなく、まねをしていく。
他地区、他県の事例を参考にする。
- 2 柔軟に楽しく取り組む・・・道なき道を進んでいる状況
まずはやってみる
- 3 今年度、何か一つでもアウトプットできれば・・・取組事例、または仕組みが一つでも残せれば
年度末に、ぜひ共有していきたい。

施策一つ一つが、ただの作文にならないようにしたい。



学校・地域・行政が協力し合い、取り組んでいきたい。



【参加者のアンケートより抜粋】

- 本年度の取組について分かりやすくお話しいただきありがたかった
- 3つの視点が分かりやすく、気持ちが楽になった。
- まずは、まねてみることから始めたい。
- 概略をよく理解することができて、ありがたかった。
- モデルということで、プレッシャーを感じております。

文部科学省視学委員

福島県復興教育アドバイザー

貝ノ瀬 滋 氏

「なぜ、地域と学校が、連携しなければならないのか？」

子どもたちは、1日の1／3は学校、2／3は家庭・地域で過ごす。

(例) 「あいさつ」学校で指導しても、地域・家庭で生かされなければ定着しない。

→ 共通の課題として、共有しながら取り組む必要がある。

教育効果があがる・・・協働する大切さ

近年の日本の学力はトップクラスである (PISA)

弱みは、自分で考え、自分で判断し、発表する。言語活動が弱い。

「協働」・・・「たて」と「よこ」協力して子どもたちを育てる

先が読めない将来・・・どのような世の中であっても、生き抜くことができる子どもたちを育てなければならない。→学校だけでは無理、地域・家庭との協働が必要である。

◎ 子どもたちを育てるためには、学校・地域が協働していく。

「良い地域には、良い学校がある。良い学校は、良い地域をつくる。」

社会教育関係者・・・学校と地域をつなぐ役目がある。

学校をマネジメントする、校長の意識を変える必要がある。

→行政が(教育委員会)地域が動機付けを、意識を変える。



【参加者のアンケートより抜粋】

- 「協働」の基本理念を知ることができた。安心感を得ることができた。
- 地域学校協働活動事業の「動機づけ」として、とても役に立った。
- すばらしい話術で、まさにコーディネーターの模範であった。話もよく分かりやすかった。

尚絅学院大学エクステンションセンター

センター長

松田 道雄 氏

1 「名称について」

- ・働き手の子どもを大切にする。
- ・自分の健康のためだけに生きるのではなく、次世代のために。地域の中で子どもたちの能力を高め
ていく。・・・次世代を育てることが、自分の生きがい

2 「事業について」

- ・絶対にしなくてはいけないことはない。とにかく何かをつくる。

3 「事例について」

- ・コーディネーター・・・今までにないことでつなぐ。担任の先生ではできないこと。
- ・地域の力を生かす。



【参加者のアンケートより抜粋】

- 様々な事例を紹介いただき、発想が広がった。「協働本部」という名称にこだわりすぎないことが大切だと理解した。
- 学校と地域が、双方向のある取組で互いに喜び合うことができるものにしていきたい。
- 関係者の考えを聞き、前向きに考えることができた良い時間が持てた。
- 無理なく、楽しんでやりたい。

栃木県教育委員会事務局生涯学習課

ふれあい学習担当 課長補佐 井上 昌幸 氏

「連携活動に期待されるもの」

- 1 子どもの「生きる力」が育成される。
- 2 子どもたちに地域への愛情が生まれる。
- 3 授業の内容が充実する。
- 4 地域の教育力が向上する。
- 5 教育課題が解決する。

「地域連携教員について」

総合調整「プランナー・企画者」

「連絡調整や情報収集・発信」

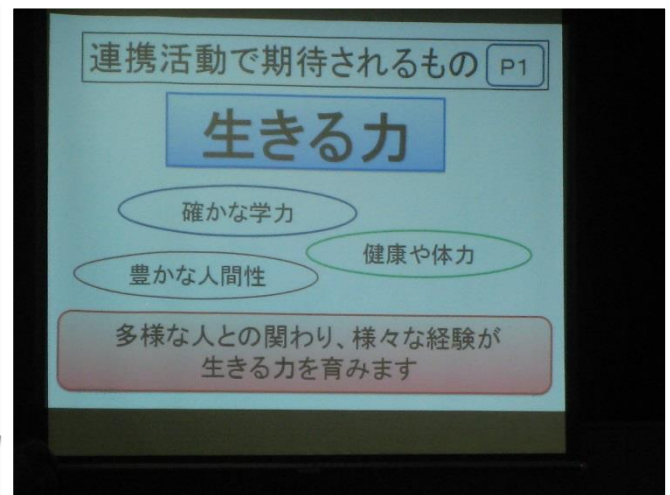
「取組の充実」

「コーディネーターについて」

「情報収集」「つながりづくり」「マネジメント」

「情報発信」

「コーディネーター」配置により担当教職員の負担が減る。



【参加者のアンケートより抜粋】

- 具体的に業務について説明があり、とてもよかった。
- 今後事業を進める上で、大変役立ちそうな資料がたくさんあり、参考になった。
- 疑問に感じていたところが、解決できそうである。

参加者アンケートより（全体を通しての感想）

- 新規の事業ということで、各市町村同士の情報共有が重要だと感じました。今後は、特色のあるまちづくり・事業展開ができるように取り組んでいきたいと思います。
- 全体的に不安が和らぎました。新たな取組に、戸惑いも多々ありますが、研修資料など、とても参考になりそうです。
- まだ始まったばかりなので、情報交換等を大切にしながら、まず「やってみる」「動いてみる」「つながってみる」など、大切にしながら今年一年取り組んでいきたいと考えています。
- 全く先が見えず、参加にも困っていましたが、講話・講義を聴く中で、ずいぶんとハードルが下がりました。今までやっていたことを、さらに仲間を増やし、楽しんで取り組みたいと考えています。
- やるべきこと、やれることが明確となり、とても充実した会であった。特に、何か新しい特別なことをするわけではなく、今までやってきたことを生かすことで、「できる」と感じ、不安感がなくなってきた。大変ありがたかった。
- 今後の方向性やあり方について、不安を感じていたところがあったが、地域の人、地域の子どものためという視線から地域の特色を生かした活動につなげていきたいと思った。
- 0から始めるのではなく、あるものを確認してできることからやっていくことが大切だとわかりました。